

シャドーイング法の初級中国語教育への応用

シャドーイング法の初級中国語教育への応用

教室におけるシャドーイングの実践を中心に

On the Application of Shadowing Method to Beginning Chinese Language Education

趙 菁

Zhao Jing

Recently, shadowing has attracted much attention in the field of teaching and learning foreign languages. This paper reports an attempt using shadowing method in beginning Chinese Language classes. The results shows that the method improve the beginning Chinese Language Learners' speaking and listening skills.

1. はじめに

シャドーイングとは本来同時通訳養成の訓練で採用された基礎訓練法の一つであるが、この通訳訓練法が近年多くの教育関係者の間で注目され、外国語教育に導入される傾向が強まっている。特に英語教育においては、シャドーイングが英語力の向上に効果的であった教育現場からの研究報告（玉井，2002・2005；岡田，2002；田中，2004）が相次いで発表された。また日本語教育においても、シャドーイングの効果が認められつつある（萩原，2005；望月，2006）。一方、中国語教育においては、シャドーイングテキストが若干出版されているが、指導の実践報告及び応用研究はほとんど見当たらない⁽¹⁾。

2007 年度、2008 年度の 2 年間にわたり、筆者は金沢大学の共通教育言語科目である初級中国語において、シャドーイングを取り入れた授業を行った。本稿は、シャドーイング授業実践を報告しながら、中国語教育におけるシャドーイングの有効性を考察し、シャドーイングの中国語教育への応用のあり方を探る。

2. シャドーイングを授業に取り入れる理由

シャドーイングについては次のように定義づけられている。

Shadowing is an act or a task of listening in which the learner tracks the heard speech and repeats it as exactly as possible while listening attentively to the in-coming information

聞こえてくるスピーチに対してほぼ同時に、あるいは一定の間をおいてそのスピーチと同じ発話を口頭で再生する行為、またはリスニング訓練法（玉井，2005）

シャドーイングの基本は正確に相手の発する音声を再現することである。シャドーイングを継続的に行うことで、以下のような効果が挙げられる。(鳥飼・他, 2003)

- ・母語なまりなど発音の改善
- ・連結など実際の音韻現象の習得
- ・発音、抑揚、リズム、ポーズなどの改善
- ・目標言語の速度についていける
- ・復唱することで音声は短期記憶に残り、同時に消失する音声よりも意味理解の手がかり時間が与えられ、理解力が促進
- ・リスニング練習とスピーキング練習が同時に可能

英語シャドーイング研究の礎を築いた玉井健(2005)の研究によると、シャドーイングは英語学力の上位群では効果は認められないが、中位・下位群には大いに効果がある。それは、上位群がすでに持っているもの、すなわち非知識的なリスニング技術の中・下位群がシャドーイングを通じて身につけたからである。

英語教育の研究成果を参考に、筆者は中国語の初級クラスでの授業にシャドーイングを取り入れることにした。初級中国語の学習者にとっては、一番の難関は発音である。特に同じ漢字圏である日本人学生にとっては、文法や表記は日本語の知識を活かせばそれを受け入れるのがそれほど苦ではない。しかし、中国語特有の「四声」と抑揚などは、いつも学習者を悩ます難点である。そして、これはまた中国語のリスニング力に大きく影響する。

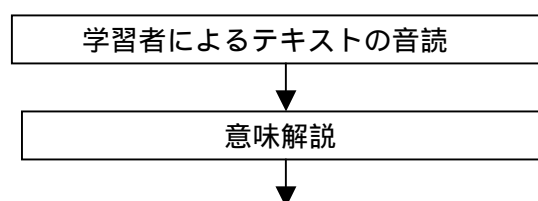
そこで、中国語学習の初級段階で、リスニングの入り口にあたる音声知覚の栓を開放することで、学習者を発音不安から解放し、より中国語らしさに富んだ実的な運用能力を身につけてほしいという目的で中国語の初級クラスにシャドーイング訓練を導入した。2007 年度前期にスタートしたシャドーイング授業実践は、学習者から好評を得たため、2007 年度後期、2008 年度も続けて取り組んできた。

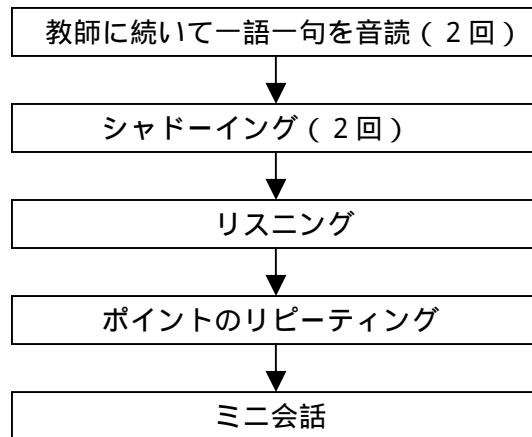
3. 授業におけるシャドーイング実践報告

3.1 授業の進め方

本授業で取り組んだシャドーイング実践においては、学習者が教師の中国語による音声を1秒遅れてできるだけ正確に繰返すことになる。

シャドーイング実践授業(週一回90分)を2007年度4クラス(123人)、2008年度2クラス(54人)で行った。テキストは『アカンサス中国語』(杉村安幾子・趙菁・矢淵孝良共著, 2006, 好文出版)の会話文を使用し、授業は以下の順番で進んでいた。





学習者によるテキストの音読

まずは、未学習の会話文について学習者に一人に一行ずつ担当させ、発音記号にそって音読してもらう⁽²⁾。ここでは学習者の発音の間違いの訂正は特に行わないが、学習者にとって読みづらい単語やフレーズを把握する。また、これで教室に中国語を学習する雰囲気をつくり上げる。

意味解説

英語とは異なり、ほとんどの学習者が大学入学後に初めて中国語に触れるので、文意を理解する前にシャドーイングをするのはなかなか受け入れがたいと思われる。英語学習では本格的なシャドーイングの前にマンブリングが行われる。マンブリングとは、声に出すか出さないかの小声で行う下稽古としてのシャドーイングのことである。本授業でも数回試みたが、意味が分からないと不安に思うという学習者から批判の声が多かったので、意味説明するまえのシャドーイングを行わず、テキストの内容理解を済ませた上でシャドーイングに取り組むことにした。

教師について一語一句を音読

教師の後に続いてゆっくり文章を読む。新出単語や で把握した読みづらい、間違いやすい箇所を中心に音読する。学習すべき会話文を2～3回読み、使用している単語や文法事項の確認をする。

シャドーイング

教師が会話文を読み、学習者が教師の音声より、1秒遅れて教師の発音をできるだけ正確にまねして口頭で繰り返す。本授業はCDや他の機材を使わず、教師の肉声でシャドーイングを行う。人数上の関係で（20人～30人）学習者が一人一人、大声を出すと教師の声や自分の声が聞こえなくなるので、控えめな声でシャドーイングをさせる。基本的にはテキストを閉じてもらうが、どうしても見てやりたい人は見ても構わないこととした。また、シャドーイングは高い集中力が必要であるため、スタートする前に、4、5秒くらい集

中させる時間を与える。シャドーイングをする際に、教師の発音に注意を向け、それをできるだけそのまま模倣しながら復唱する。特に、リズムやイントネーション、音の連結、間のとり方などに注意し、自分なりの発音や日本式の発音を忘れるように常に注意する。また、シャドーイングを完全にさせようなどとはせずに、発音についていけない所は飛ばして、今聞こえているところに集中させるようにする。

シャドーイングはかなりきつい訓練であり、脳に与える負担も大きいいため、毎回の練習時間はおよそ5分程度に設定する。

リスニング

シャドーイングをした後にテキストを開き、教師の音声についていけなかった箇所の確認や復習をさせる。その後、テキストをもう一度閉じて、教師の発音を聞き、リスニングを行う。

ポイントのリピーティング

この授業は特にテキストの丸暗記をさせないが、会話文の一部分を抜き出し、教師がそれを発音し、学習者にリピーティングをさせる。

ミニ会話

リピーティングした部分をもとに2、3人を一組にミニ会話をさせる。そこで、単語の入れ替えや新しいネタを加えることを勧める。そして、最後にミニ会話のチェックを行う。その際に、ミニ会話のキーワードを板書する。板書を見ない学習者が多いが、板書があるとないとでは、学習者の安心度が異なる。発表する際に、学習者に席に着いたままで会話をさせる場合もあれば、立ってさせる場合もあり、時間に余裕があるときは、教室前方で発表させるときもある。

本授業は、2007年度までは学習者一人ずつの発音チェックに時間を多く割いたが、学習者はチェックの番を待っている時や、チェックされた後はほとんど学習に取り組んでいない。そこで、チェックする時間を短縮し、限られた授業時間内に、学習者に教師の発音を多く聞き、多く真似する時間を与えることにした。これは本授業にシャドーイング法を取り入れる理由の一つでもあった。

後に挙げるシャドーイングに関する学生の感想にも見られるが、教師に直接発音を直されるより、シャドーイングを通して自分の発音の欠点などに気づくことのほうが強く印象に残る。

また、教室におけるシャドーイングは、学習者全員のやる気を引き起こす効力も見受けられる。特に集団行動を好む日本人学生の場合は、一人ではなかなか行動しないが、皆と一緒になら怠ることをせずに、積極的に取り組む者が多い。この点から、教室でのシャドーイングは、学習のムードづくりにも効果的であると言えるだろう。

3.2 本授業のシャドーイングの特徴

本授業は教師の肉声でシャドーイングを行っている。その利点の一つは、テキストを読むスピードを、学習者の習熟度によって調整することができることである。たとえば、学年の前期において、まだ中国語を学び始めて間もない頃は、読むスピードをゆっくりにし、学年の後期には、自然な速度にまで上げる。また、クラスによってスピードを変えることもある。

肉声でシャドーイングを行うもう一つの利点は、教師が発音すると、学習者たちが自然に教師の口元に注目し、発音する際の教師の口の形を模倣しながら練習するようになる。そうすると、音の変化、強さ、リズムなどをより効果的に身につけられる。もちろん、CDやテープを聴くことも効果的ではあるが、教師の肉声の場合は聴覚と視覚の両方から学習者に刺激を与え、発音する意欲を一層高めることになる。

本来は、シャドーイングは他の声や音が邪魔にならないように、LL教室やヘッドホンを使って行うのが理想であるが、本授業はあえてそれを使わず一般の教室で実施している。一回90分の授業においては、2に挙げた から の練習をし、これに文化を紹介する時間を加えるとあまり時間的な余裕がない。そこで、機械の調整や不具合などに時間をとられると、ますます練習する時間がなくなる。実際には、この2年間の実践を通してみると、シャドーイングは一般の教室での実施が教師の工夫次第で十分に可能であることがよく分かった。

以下、シャドーイングが中国語学習に如何に役に立ったかについて、学習者の感想に合わせて考察していく。

4. シャドーイングの有効性と問題点 - 学習者の感想より

2007年度、2008年度の学年の前期と後期の最終回、合計4回においてシャドーイング実践授業について無記名の自由記述形式で学習者の感想を聞いてみた。主に「シャドーイングは中国語学習に役立ったか」と「この練習法を続けてやってほしいか」の2点について感想を書いてもらった。

「シャドーイングは中国語学習に役立ったか」については、4回ともほぼ同じ比率の答えが出た。70%の学習者が「シャドーイングはいい練習法、中国語学習に効果があった」、20%の人が「シャドーイングは難しい」、10%の人が「シャドーイングはわけがわからない、いらない」と答えた。また、ほぼ80%の学習者が今後も「この練習法を続けてやってほしい」と回答している。

以下は、シャドーイングの効果について、学習者が具体的に書いた箇所をピックアップし、本授業で取り組んでいるシャドーイングの有効性と問題点を分析していく。

4.1 有効性

英語教育からの影響

シャドーイング法は語学力強化法の一つとして注目され、大学の授業だけでなく、予備校や塾、そして中学高校の英語の授業などでも取り入れられている（田中，2002）。本授業については、高校でシャドーイングを体験したことがある学習者から以下のような感想が示されている。

- ・高校でもシャドーイングを英語で取り入れていたし、頭の中にも例文が残りやすいと思うので、続けてほしいです。
- ・私は受験生のとき英語のリスニングのときシャドーイングをして、聞くだけだと受身になると思うので、この練習法はとても良いと思いました。
- ・シャドーイングはよいと思います。高校の時に英語でも実践していましたが、効果的でした。教科書を読むだけでなく、シャドーイングも続けるべきだと思います。
- ・英語でもこの練習法は有効だと思うので、これからもやったほうが良いと思います。
- ・Shadowing はとてもいいと思いました。高校のときの英語の授業で行っていたんですが、そのおかげで英語力がUP したと思ってたし、きっと中国語の Shadowing でも効果はあったと思います
- ・シャドーイングについて僕はいい練習だと思います。中国語の発音の流れやどこで切ればよいかなどがわかるので。僕は高校の時、英語の授業の時シャドーイングをしていました。シャドーイングはいいと思います。自分の言語能力が少しずつではありますが、上達していると感じられました。

このように、英語学習で体験済みの学習者は、シャドーイングの中国語学習への応用が中国語のリスニング力の向上に繋がることを確信している様子が窺える。実際に、シャドーイングを取り入れる中学高校の英語授業の実践例の研究によれば、シャドーイングは中学高校の英語授業において、文字理解を音声理解につなげるにはかなり効果的であったことがわかった（久保野，2003、大嶋，2003、小金沢宏寿，2003、望月，2005）。英語教育の研究成果と授業実践例から、シャドーイングが中国語教育にも活かせるところが多くあると考えられ、今後英語教育の成果を参考に取り入れ、授業の改善に取り組んでいくつもりである。

初めて触れる中国語に対する戸惑いを解消

- ・ピンインの読み方は英語と違って読みにくいので、シャドーイングをしたら、わかりやすいので、やってほしいです。
- ・もっといっぱいやってほしいです。耳が中国の発音に慣れていないのでシャドーイングが聞き取りの練習になっていいと思います。
- ・シャドーイングは中国語を感覚的に覚えられることができ、なおかつ、その後本文を見ながら発声するので、目と耳で中国語を鍛えることができるので効果的であると思う。

大学に入ってから初めて触れる言語に対して戸惑い、不安があるのは当然であるが、教師として如何にその不安を取り除いてあげることが重要になろう。特に中国語の場合は発音が初心者最大の難点で、受け入れるまでには時間がかかる。発音、アクセント、イント

ネーションなど、いわゆるプロソディックな面の知識や運用力が十分ではない学習者にとっては、シャドーイングはその外国語に対する認識力を高める一つ有効的な方法であると思う。本授業の学習者がシャドーイングを難しい訓練法と思いながらも、大多数の人がこの訓練法を受け入れていると見て良いだろう。

教師の役割

- ・教科書を閉じて、先生の口や発音に集中して自分で発音できるので良いと思います。言っていることを覚えて発音するので、普通に教科書を見て発音するより集中できます。
- ・シャドーイングは先生の言った言葉をきいてすぐに発音できるのでちゃんとした発音に近い形で発音できていいと思う。
- ・プロ本場の中国語を聞きながら、発音できるので、とても発音しやすかったし、上手くなったと思う。その気になれば家で CD を聞きながらでもできると思うがなかなかできないのが現実です（自分だけかも）。でも、先生なら、ゆっくり言ったり、文章をところどころで分けたりと、色々調節ができるのでいいと思います。
- ・家では発音練習ができないので、学校だけで練習しています。シャドーイングで先生の声が何度も聞けるので、私は続けてほしいです
- ・シャドーイングは先生の口をよく見るととてもやりやすいと思った。先生のマネをすることで発音の仕方がわかり、自分の発音が少しは良くなった気がします。
- ・シャドーイングは良いと思います。先生のすぐ後について言うと、先生の発音も忘れずに発音できるので、発音がより良くなると思います。

本授業はシャドーイングを行う際に、教師を見て行うように学習者に指示を与えている。これは学習者の感想からもわかるように、教師の口元をまねすることができるからである。CD を聴いても当然シャドーイングはできるが、発音のコツを掴めていない学習者にとっては、随時に教師の口元をみて自分の発音をチェックできることが、教師の肉声によるシャドーイングの利点である。本授業の学習者には、テキストに付属している CD-ROM を使って家で練習する者が多くはいないことが現状である。そのため、授業中にできるだけ教師の中国語による発音を多く学習者の耳に届けることに力を入れている。学生がネイティブスピーカの授業に求めているのは、なにより教師の声を多く聞くこと、教師との会話を楽しむことである。教師の肉声によるシャドーイングは、教師の発音に近い発音が自分もできるという自信を学習者に与え、中国語を学習するモチベーションを高めることにも繋がると思う。

中国語のリズム、抑揚を身に付ける

- ・シャドーイングは中国語のリズムを覚えるために必要だと思います。
- ・発音など不明なところもあったが、流れに乗って読むことで、なんとなくその不明な発音もわかってきて、よいと思った。これからの授業でもするべきだと思う。

- ・聞きながら発音するというのが難しくて、どちらかに集中すると、もう片方がおろそかになってしまっていて大変でした。でも後に続いて発音することで、リズムやよくようが自然と身につくような感じがして、良い練習になったと思います。
- ・シャドーイングは本文自体の意味がわからなくても中国語のリズムや発音のしかたに自然に慣れるようになるので、よかったと思います。
- ・シャドーイングは、耳できいてすぐ発音できるので、正しい発音が耳から離れないうちにできると思うのでよかったと思います！中国語たのしかったです。

学習者がシャドーイングを通して、中国語の音声に対する認知度を高め、学習の意欲も上がっていることが上記の感想に示されている。

シャドーイングが通常のリスニングと異なっているのは、シャドーイングが最初からリスニングのように意味内容の理解をめざすのではなく、シャドーイングが知覚処理段階の訓練を積むための学習であり、音声知覚自体の練習に集中することである（門田，2007）。しかし、シャドーイングは意味内容の理解と無関係ではない。次に挙げる感想を見てみよう。

意味理解に役立つ

- ・漢字を思い出しながら発音できるのでとてもいいことだと思います。シャドーイングをすることで覚えるようになった気がします。
- ・発音を覚えるのに必死だったけど、だんだん意味を頭の中で確認しながらするようになった。
- ・シャドーイングはよいと思います。覚えられてるか分からないけど、ちょっと頭に文書が入っていくような気がするので、私はいいと思います。
- ・シャドーイングの練習はとてもよいと思う。頭の中で中国語を理解しようとするので上達すると思う。
- ・僕はこの授業を受けて、シャドーイングは文章構成や意味などを強く意識する読み方なので、とてもすばらしいものだと思います。
- ・シャドーイングはやってよかったと思います。音を追いかけているうちに頭の中に漢字が浮かぶことがちょっとだけ多くなった気がします。

シャドーイング訓練の当初は、大腦への負担がかなり高い状態で、意味内容の理解をする余裕がない。この状態から抜け出すには、ある程度の時間がかかる。そこで、新たな習慣を形成するような繰り返し学習が重要である。繰り返すことで、だんだんとシャドーイングがづらい作業ではなくなってくる。英語の場合は、英語音声の知覚やその復唱に全神経を集中しなくても、シャドーイングが比較的に楽にできるようになっている。門田(2007)はこれを一種の「慣れ」という。中国語学習にも同じ現象が見られる。

繰り返してその音声に慣れると、それまでまったく理解不能であった文の意味や、文法構造なども把握しながら、シャドーイングをすることが可能になってくる。 の感想からは、漢字や中国語の文章構成、意味を理解できたのはシャドーイングで中国語の音声に慣

れた結果であったということが示されている。

慣れると楽になるとは言え、シャドーイングを繰り返す際にただボンヤリして発音するだけでは効果が現れず、シャドーイングはやはり学習者の集中力がかなり問われる作業でもある。

集中力

- ・自然と集中して聞き取ろうとするし、発音しながら漢字や意味を考えられるのでいいと思う。教科書を見ているだけだと、どうしても気がゆるんでしまう。
- ・発音に集中することができるのでぜひ後期にもやってほしい。
- ・シャドーイングは集中力がすごくいるので大変でしたが、頭に音のひびきが残る気がするのいいと思います。もっとしっかり勉強するべきでした。
- ・シャドーイングは集中していないと、なかなか難しかったけど、発音や文のどの部分を区切って読んでいけばよいか少し分かったような気がしました。

シャドーイングをしている際に、集中して真剣に取り組んでいる者は、教師の発音の最後までついて発音できるが、よそ見をしたり、他のことを考えると集中できず、途中でペースが乱れてついていけなくなる。授業中、学習者の表情にその集中度が示される。シャドーイングが辛い作業から楽な作業に変わっていくには、集中するに越したことがない。集中して行くと、それまでの自分の発音の欠点に気づくようになっていく。

自分の欠点に気づく

- ・シャドーイングは中国語の発音を練習する上で、大変役に立つと思います。自分の分からない発音や、誤って発音している単語が先生の後に続いてよむことで見つけられるので良いと思います。
- ・シャドーイングは発音と、自分が覚えているか、確認するために効果的だと思う。またどこで区切ったら良いかなど、話し方の上達につながるのでよかった。
- ・シャドーイングでは、自分の発音があっているか確かめられたので良かったです。

わからない発音や間違っている発音は口頭で説明しても、理屈のみ理解して、なかなか綺麗に発音できない学習者が多い。シャドーイングを繰り返すことで、本来スピードが速いと思っていた発話の音の強勢、高低の変化、ポーズなどに意識が向くようになるが、これはリスニングにおいて知覚段階が自動化していくプロセスである（門田，2007）。音声知覚が自動化すると、そこで、自分の発音とネイティブスピーカの発音との違いにも少しずつ気付くようになり、また、それと同時に文章、文字の意味も理解することが可能になってくる。学習者全員がここまでできるとは限らないが、シャドーイングを続けることで音声知覚と意味理解の双方に役立つことは間違いないだろう。

復習への有効性

- ・とても楽しく中国語を学べました。シャドーイングは、復習した時に自然に文が読めてびっくりしました。

- ・シャドーイングをした後に自分で復習をするとたいへん中国語が読みやすくなるので、これからも続けてほしい。
- ・もっと回数を重ねると、うまく発音できると思います。授業でやるとともに、家でも CD を聴いて練習したらよいと思います。

学習者には、予習復習をする者がきわめて少ないのが現状であるが、その少人数の中に、このようにシャドーイングが発音の復習に役立ち、また復習する意欲を引き出していることは、教師にとってシャドーイングを実施する甲斐を感じさせられたところである。

眠気防止

- ・シャドーイングは眠気防止にもなり、三回ぐらい練習できるのでよかったです。ペアを組んで覚えて会話の内容を覚えられるので授業が充実しました。
- ・眠気も覚めるのでいいと思います。普通に読むだけでは、シャドーイングのときほど先生の発音に集中していないと思う。聞き取って、それを発音するということでも集中して聞くことができた。
- ・シャドーイングは読む力を鍛えるのにはとてもいい練習だと思う。普通に先生が一文読んだあとに読む練習ももちろん大事だとは思いますが、シャドーイングの方が早いし、大変だが力が付く。何より眠くならないのがいいです。

眠気防止効果については、シャドーイングを実施する当初には予想しなかったが、これはやはり教師の肉声によるシャドーイングならではの効果かと思う。今後はシャドーイングを行う頻度や時間を調整するにあたって、このような生理面の効果も含めて考えていきたい。

やる気

- ・読む速度が幾分速くおいていかれることもあったが実際の中国人の話す速さを体験する意味ではあってよかったと思う。
- ・シャドーイングは、最初は全然出来なかったけれど、やっていくうちにすごく楽しくなった。文章のあるかたまりを、先生が言ったリズムや抑揚を耳で聞いて、そのまま声に出す、ということが続いていると、なんだか自分が中国語をぺらぺら話せる人になったみたいに思ってしまった。外国語を学ぶときに、耳で聞くのは大切だと聞いたことがあるけれど、本当にそのとおりだと思った。
- ・この授業ではじめて中国語を学んで、中国語に興味をもった。たまに生活していて、中国の方たちがしゃべっているのを聞いて、何かわかることはないかなあと、盗み聞きしたりした。そして、いくつか単語が聞き取れて、どんな会話かイメージがついて、嬉しかった。イケないことをしたけれど、自分としては、達成感や満足感が得られた。それっぽい会話が中国の人とできたらいいと思う

外国語の学習者にとっては、ネイティブスピーカの会話が理解できたことは何よりの喜びである。むろん、外国語能力を高めるには、シャドーイング法のための訓練では、このよう

な達成感は得られないと思うが、シャドーイングを繰り返すことで、ネイティブスピーカの会話が速くて分からないという恐れ of の気持ちから抜け出せる。そこで、落ちついてネイティブスピーカの会話を聞き取ることができる。に挙げた感想からは、学習者の喜びを感じられると同時に、学習者の今後のやる気も見えて取れる。

シャドーイングの継続の要望

【前期】

- ・後期においてもシャドーイングはやってほしいと思います。ただ中国語を学び始めて日が浅いのでじっくりやってほしいです。
- ・シャドーイングは効果的。言語はしゃべることが大切なので、こういう試みは重要だと思う。少しは、僕も中国語が話せるようになった。これも偏りにシャドーイングのお陰だと思う。今後も続けてもらいたい。
- ・シャドーイングは外国語を勉強するうえで、とても重要だと思うので続けた方がいいと思います。

【後期】

- ・最初は文の意味が取れなかったけれど、シャドーイングを繰り返しているうちにすこしではあるが、文の意味が分かるようになってきたのでこれからもシャドーイングを授業でやってほしい。
- ・私は英語も中国語も苦手で、でも、今日漢字だけが並んでる文を見て思ったのは、読み方って何となく覚えてるものなのかなあということです。英語を習いはじめた時よりもいっぱい声を出したり、聞いたりしたからでしょうか。シャドーイングをやっている時は漢字も浮かばず意味も浮かばず、っていうことも多かったですが、今思うとそういう慣れ方がよかったのかなあと思いました。
- ・前期より後期の方が発音がわかりやすかったし、やりやすくてよかったです。
- ・前期と比べてより後期の方がついて発音できるようになったと思う。シャドーイングは中国語の発音を聞き取るにはとてもよいものだと思う。
- ・前期より後期の方がなれたからか、楽しかった！

学年の前期において、シャドーイングを実施する際に、戸惑う表情を隠せない人がいたが、後期になると、シャドーイングをスタートすると同時に、学習者は教師の口元に注目し、集中してシャドーイングに取り組んでいた。後期のテストでは主にリスニング力とスピーキング能力をチェックしたが、学習者の中国語力が前期より大幅にアップしたことが確認できた。今後、中国語力の向上におけるシャドーイングの役割については、より体系的な指導及び授業実践、具体的なデータ分析が必要ではあるが、学習者の感想に示されたように、シャドーイングに取り組んだ本授業においては、学習者はネイティブスピーカの中国語の発音に慣れ、その発音をマネすることができるようになり、中国語学習を楽しく思うようになった。今後も継続してほしいという学習者の要望に答え、これからの授業もシャドーイングを取り入れるつもりである。

4.2 問題点と改善点

問題点

- ・長い文をやるのは難しいけど、短い文ならできるのでやったらいいと思う。リスニングと発音が同時にできるのでよいと思う。発音が速すぎてわからないときもある。
- ・シャドーイング中に先生の発音に合わせてきれいによめているような気がするが、一人だとあまり読めない。身につくまでにはもっと何かしないといけないと思う。
- ・すこし読むスピードが速いので、もう少しゆっくり読んでほしいです。
- ・シャドーイングはスピードが速くてなかなかついていけなかったけど、ゆっくりやっても効果はうすいと思うので今のままでいいと思いました。
- ・シャドーイングで、区切りが短いとちゃんと発音できている気がするけれど、長いとぐちゃぐちゃになってしまいます。
- ・シャドーイングがほとんどついていけなかった。わけが分からずにしゃべっていた。
- ・読むことと聞くことがどちらもできて良かったと思います。生徒の声が大きくて、先生の声が聞こえないときがあったので、次は改善されるといいと思いました。

シャドーイング法は効果的ではあるが、万能ではない。本授業で気づいた問題をいくつか挙げると、まず、自然なスピードが最も理想ではあるが、学年の前期においてはスピードを落とす必要がある。そうしないと、やる気を喪失する学習者が出る可能性がある。学習者の慣れ具合に合わせて、徐々に自然なスピードに近づけることが教師の工夫すべき点である。もう一つは、本授業のように肉声によるシャドーイングの場合は、教師の発話の音量が問題になる。一クラスの学習者数は20人から30人であり、皆に控えめに発音させ、教師が最大限に発音しても、教師の声が埋もれるときがある。これではシャドーイングの効果にも影響を与えかねない。今後、例えばマイクの使用などの工夫が必要になると考えている。

改善点

- ・シャドーイング好きです。もっと発音したい、数をこなしたい。シャドーイングの回数をもっと増やしてほしいです。
- ・1回目、2回目は頭の中で文章を思い浮かべながら口に出すことができ、効果的である。3回目はもっとゆっくりするともっと効果が上がると思う。正直速かった。
- ・最初に読む回数を増やしてからシャドーイングをやってほしい。
- ・教科書の文書じゃなく、もっと日常的な会話をシャドーイングするのがよいと思う。
- ・自分がどれほど覚えられているかがよく分かってよかった。言語を学ぶ上でシャドーイングは大切だと思うので、新入生には早い段階で取り組ませた方がよいと思いました。あと、回数は今よりも増やした方がよいと思う。
- ・週2しか授業がなかったのが、週4くらい授業すればいいと思いました。

の問題点を含め、に指摘された「シャドーイングの回数を増やす」、テキスト以外の「日常会話をシャドーイングする」、授業数を増やすなどを考慮に入れ、シャドーイングを取り入れた授業の改善に努めたい。

5. 今後の課題

以上、本授業の学習者がシャドーイング訓練法を通して、中国語学習に楽しみと自信をもつようになっていたことがその感想から見受けられるだろう。中国語力の向上にシャドーイングだけが効果的であるとはいえないが、中国語を話す、理解することを可能にしてくれる一つの方法としてはシャドーイングが有効であることはいえるだろう。単調になりがちな外国語の授業においては、さまざまな練習方法を組み合わせて、いかに学習者に興味を湧かせつつ能動的に学習に取り組ませるかが教師の重要課題である。今後もシャドーイング指導のスタイル、行う程度などについて、さらに実践方法を探っていきたいと考えている。

また、今回は中国語学習者の自己申告によるシャドーイングの効果について考察したが、今後は実際のデータ収集・分析など、科学的研究方法によるシャドーイングと中国語学習との相関関係に関する研究を進めるつもりである。

【注】

(1) 中国語シャドーイングテキストには、初級者向けとして、

古川典代(2005)『中国語シャドウイング入門 聞くと話すが同時に身に付く』DHC

長谷川正時(2004)『通訳メソッドを応用した中国語短文会話 800』

スリーエーネットワーク

長谷川正時・長谷川曜子著(2007)『入門からのシャドウイング中国語短文会話 360 と基本文法』星雲社

そして、中級者向けとして、

長谷川正時(2005)『通訳メソッドを応用したシャドウイングで学ぶ中国語文法』

スリーエーネットワーク

長谷川正時(2006)『通訳メソッドを応用したシャドウイングで学ぶ中国語難訳語 500』

スリーエーネットワーク

長谷川正時・長谷川曜子(2007)『通訳メソッドを応用したシャドウイングと速読で学ぶ中国語通訳会話』スリーエーネットワーク

などが挙げられる。また、シャドーイングにも使える「中国語学習無料データベース」がある。

(2) この授業のスタイルは中国語の発音記号(ピンイン)の学習が終わった時点から行う。

【参考文献】

久保野雅史(2003)「音読で話す力をつける」『英語教育』12月号, 24.大修館書店

大嶋浩行(2003)「文法訳読式から音声重視へ intakeを増やす shadowing」『英語教育』2月号, 40-41.大修館書店

岡田あずさ(2002)「英語のプロソディー指導におけるシャドウイングの有効性」『研究紀要』

Vol.8:117-129.つくば国際大学

荻原廣(2005)「シャドーイングの日本語音声教育における有効性」『国文学論叢』第52号,
112-126.龍谷大学国文学会

門田修平、玉井健(2004)『決定版 英語シャドーイング』コスモピア

門田修平(2007)『シャドーイングと音読の科学』コスモピア

小金沢宏寿(2003)「リスニング力アップのためのシャドーイング活動」『英語教育』2月
号,14-16.大修館書店

田中深雪(2004)「「通訳訓練法」を利用した大学での英語教育の実際と問題点」『通訳研究』
第4号,63-82.日本通訳学会

玉井健(2002)「リスニング力向上におけるシャドーイングの効果について」『通訳研究』
第2号,178-192.日本通訳学会

玉井健(2005)『リスニング指導法としてのシャドーイングの効果に関する研究』風間書房

玉井健(2008)『決定版 英語シャドーイング超入門』コスモピア

鳥飼玖美子[監修・著者]、玉井健、染谷泰正、田中深雪、鶴田知佳子、西村友美(2003)『は
じめてのシャドーイング』学習研究社

望月通子(2006)「シャドーイング法の日本語教育への応用を探るー学習者の日本語能力と
シャドーイングの効果に対する学習者評価と関連性を中心に」『視聴覚教育』第29
号,37-53.関西大学